

天子山塊地質調査予報

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2011-08-26 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 加藤, 智雄 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00005931

天子山塊地質調査予報

加藤智雄

本年度卒業論文の調査区域として天子山塊が選ばれたのでこゝに予察調査の結果を簡単に報告する。この地域はフォッサマグナ地帯中にありながら地形が鋭峻なため未だ十分な地質調査が行われていない。

1954年3月20日から6月21日までに天子ヶ岳南方の稲子川流域とその東方地域及び天子ヶ岳より田舎湖西方の1335.8mに至る稜線を調査した。従来に行われた調査は故大塚弥之助博士がかつて稲子川から落合を経て西沢に至り更に佐野川に達するルートマップを作られたことがある。また1948年に東京大学の工藤氏が白水山附近を中心とした地域を調査した進級論文附図がある。また本地域の南方は沢村孝之助氏により調査された沼津図幅の地域に属する。

本地域の地形は天子山塊が富士山の西麓を南北に長く延び南は富士川により切られている。北方に次第に高度を増し最高点1946mを経て東に向きを変え本栖湖に至っている。

地質は稲子川に沿つて沼津図幅の小河内層(中新世中期と考えられる。)が北に延びておりその東側に浜石岳層(鮮新世初期)が分布する。この両者は南北の断層で接している。小河内層は故大塚弥之助博士の西八代層群に含まれるべきものと推定される。この地域の小河内層は化石に乏しいためその地質時代は充分明かでない。この地域に於いても化石は未だ発見されない。

本地域の小河内層を岩相により次のメンバーに分けた。これらメンバーの上下関係は未だ充分明かでない。

(1) 森シルト岩

上稲子附近及び大田和附近に分布する。黒色乃至灰青色を呈する軟弱な岩石で風化すると細片に分解する。

(2) 落合砂岩礫岩

落合を中心として広く分布し、東は浜石岳層と断層を以て境する。主

として粗粒な砂岩及び中礫の礫岩よりなる。灰青色や、凝灰痕で固く風化面は褐色を呈する。

田 門野砂岩頁岩互層

上稲子門野附近に分布する。中礫砂岩15cm頁岩5~10cm程度の砂岩頁岩互層である。東側は落合砂岩礫岩の層と南北に走る小断層で接する。この互層は走向傾斜からみて共に緩く向斜褶曲をなすものと思われる。

田 入山砂岩シルト岩互層

入山附近から北にかけて分布する。中礫を灰色の砂岩と黒色シルト岩の互に砂岩15cmシルト岩5cm程度である。

田 塩野凝灰岩

塩野附近で僅かにみられ白色を呈する。

田 天子ヶ岳方面

天子ヶ岳東側の山腹より麓までは凝灰岩痕な粗粒砂岩及び細礫の礫岩及びシルト岩が分布する。この附近は地形の関係で露出悪く風化して褐色を呈する。ABB58mの東麓段及びその北側の沢は粗粒砂岩及び細礫な礫岩よりなる。砂岩は暗灰色で落合砂岩に比して柔かい。

火成岩

本火成岩は岩脈岩床岩脈として小河内層を貫くもので沼津図幅の十島火成岩類とほぼ同類である。ここでは上稲子火成岩類と呼ぶことにする。

田 閃緑岩

白水山石神峠西・谷戸の東方及び森松屋から稲子川の西岸に沿って落合の近くまで分布する。岩体は不均質で著しく粗粒を部分を含み肉眼的組織も一様でない。灰緑色か灰白色を呈し長柱状の多量の角閃石を含んでいる。

(2) 玢岩

閃緑岩の岩体の周辺及び落合砂岩礫岩層を貫く岩脈岩床として分布する。灰緑色か灰白色を呈し塩野の東方1kmの地点のものは紫蘇輝石及び普通輝石を含む複輝石玢岩である。石神峠附近のものは径10cmに達

する透輝石質普通輝石の巨晶を含む。~~落合附近に岩床として貫入するものは短径10cmに達する透輝石質普通輝石の巨晶を含む~~落合附近に岩床として貫入する玢岩も短径2.5cm長径5cmの透輝石質普通輝石を含んでいる。この透輝石は山梨県佐野川附近の玢岩中に産するものが日本鉱物誌中に記載されている。

(3) 安山岩

(i) 普通輝石安山岩

小河内層と赤石岳層との境に沿い岩脈として分布する。灰白色で斜長石の斑晶が目立ち、なお普通輝石を含む。

(ii) 複輝石安山岩

天子ヶ岳東尾根上半から天子ヶ岳を経て△1335.8m附近にかけて分布し天子ヶ岳南尾根の岩場はこの続きであろう。△1335.8mの北側の沢にも転石が見出されたので更に北方へと延長しているものと思われる。暗色を呈し斜長石の斑晶が目立ち、紫蘇輝石及びピジョン輝石を有する。

(iv) 粗面安山岩

落合の東方500mの地点に岩脈として露出し灰白色を呈する。

本地域の赤石岳層は小河内層の東側に分布しこの地域では殆んど礫層よりなる。櫻峠及び上柚野村附近に於てはよく円磨された淘汰不十分の礫よりなり基質は凝灰岩質である。礫は小河内層中に貫入岩体をなす閃緑岩玢岩斑岩。小河内層の砂岩シルト岩。及び出所不明の花崗岩で構成されている。礫の直径は20~2cm位である。

赤石岳層と小河内層との境は稲子川に沿い森附近に至るが、これより北東に向きを変えて上野村坂林附近に至る。接合部近縁まで地層が多少破砕されている状態より断層と考えられる。

富士山噴出物

天子ヶ岳の東側傾斜富士火山噴出物で蔽われ地形は対照的にゆるやか

である。古富士泥流を覆つて芝川礫岩流及び火山放出物が分布する。

結論

本調査で判明したことは

1. 小河内層が広く分布する。
2. 浜石岳層は北方に延び坂林附近で消失する。
3. 小河内層を貫く火成岩体が各所に分布する。
4. 小河内層・浜石岳層を通じ化石に乏しい。
5. 小河層に於ては南北に走る向斜褶曲の存在が予想される。

なお本調査に同行下つた鮎島先生に深く感謝致します。